

令和2年度 学校支援地域本部事業報告

「子どもと地域をつなぐ絆をつくる～支援から協働へ～」

ー未来を担う子どもたちの成長を支える体制づくりー

清須市学校支援地域本部

1 はじめに

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて、平成27年12月の中教審答申（地域と学校の連携・協働）を受け、平成29年には保護者や地域住民が学校運営に参画する仕組みである学校運営協議会の設置が努力義務となり、地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民や保護者等の参画により地域全体で子ども達の成長を支え地域を創生する「地域学校協働活動」を全国的に推進するため、社会教育法も改正されました。これにより、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進に向けて動き出すこととなりました。

本市においては、平成20年度より「学校支援地域本部」を設置し、現在はこの学校支援本部をベースに、学校と地域が組織的に連携・協働する連携協力体制を構築しています。

13年目となる今年度は、学校支援地域本部から地域学校協働活動へと飛躍の年と位置付け、体制を見直し、地域学校協働活動の理念の下、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えていく取り組みができるよう、より幅広い地域住民等の参画を推進し、活動の幅を広げ、多様な取り組みを実施できるような体制を整えていきたいと考えていましたが、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、いったん立ち止まり、子ども達はもとより、高齢者や持病をお持ちのボランティアの方々の命を守ることを第一優先とし、活動のかなりを制限いたしました。コロナ禍において、大変な状況におかれている学校に対して、学校支援地域本部事業として学校の負担を軽減できる活動があったのではないかと、という反省も生まれた1年でした。

2 地域学校協働活動及び地域学校協働本部の概要

「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

「地域学校協働本部」とは、従来の学校支援地域本部等の地域と学校の連携体制を基盤として、より多くのより幅広い層の地域住民、団体等が参画し、ゆるやかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制です。

その整備にあたっては、地域による学校への「支援」から、地域と学校双方向の「連携・協働」を推進し、「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」へと発展させていくことを前提とした上で、①コーディネート機能、②多様な活動、③継続的な活動の3要素を必須とすることが重要であるとされています。

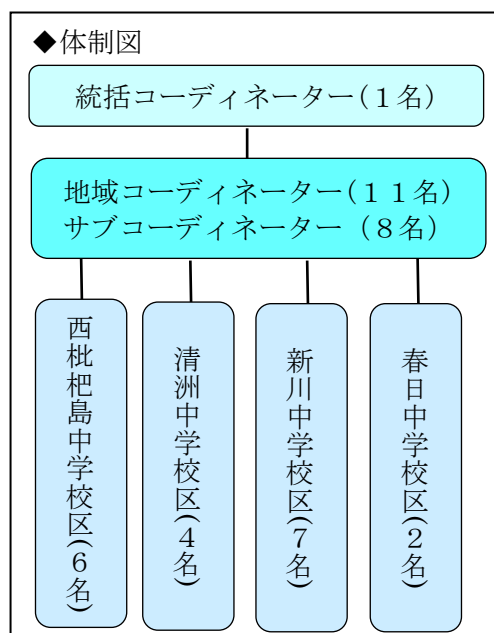
3 コーディネート機能

(1) コーディネーター会議の実施(6月16日)

年度初めに、地域コーディネーターと意思の疎通を図り、市全体としての方針を決めました。

(2) コーディネータースキルアップ研修会の実施(11月18日)

今年度は、愛知県主催の地域コーディネーター研修会が中止となりましたが、文部科学省より講師派遣を受け、全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 大坪直子氏を講師に迎え、研修会が実施できました。



4 多様で、継続的な活動の推進

(1) にしび夢のかけ橋実行委員会による「クロガネモチの木応援プロジェクト」

西枇杷島小学校のシンボルツリーであり、本市の天然記念物であるクロガネモチが、衰えはじめたことから、樹木の回復をめざし、持続的に活動し、木を守っていくことになりました。西枇杷島小学校の卒業生が関わっていることもあり、このプロジェクトを通じて、今まで小学校と疎遠になっていた地域の方々が、学校に興味を持ってくださることにより、学校支援ボランティアとして継続的な支援を申し出てくださっています。学校支援地域本部としては、地域と学校がクロガネモチを通して、結びつくことに意義があると考え、今後も継続的に協力していきます。

今年度は、この活動が何か形となって残すことができないだろうか？と考え、クロガネモチの葉や枝から染色液を作り、「クロガネモチ染め」に挑戦しました。



(2) 「東海豪雨から20年」取材協力等

平成27年度に愛知県委託事業「シニア地域デビューモデル事業」において作成した大型紙芝居を継続して上演し、東海豪雨災害を学ぶことにより、東海豪雨を次の世代に伝えていくとともに、「自然災害」に対する危機意識を常に持ち、災害に対する防災意識を高めていくことを目的としています。

今年度は、東海豪雨より20年という節目の年となるため、防災行政課の企画により本市全8小学校にて、実演予定でしたが、西枇杷島小学校と古城小学校の2校のみとなりました。

しかしながら、TV・新聞等の取材を受けることにより、学校支援地域本部事業として継続してきた大型紙芝居の意義を再確認することができました。また、5年前、制作に携わった中学生が、大学生・社会人となり、しっかりと継承してくれており、若い世代へと絆が繋がっていることを確信しました。

(3) プログラミング教育への支援

平成27年度より、愛知県委託事業「シニア地域デビューモデル事業」において、取り組んだビジュアルプログラミング言語「ビスケット」を用いたプログラミング学習を継続的に推進しています。

今年度は土曜子ども教室(サタデーキッズ)で2回開催しました。(9月12日・10月31日)

第一幼稚園においても、昨年度に引き続き年長児に向けたプログラミング学習を行う予定です。(令和3年2月予定)

また、プログラミング学習推進のためには、専門的知識を有する学習支援ボランティアが、必要になるため、学校支援ボランティアプログラミング養成講座を開催し、専門的学習支援ボランティアの育成にも努めてまいりました。(10月24日)

(4) 手作りマスク作り製作支援

学校が、休校となる中で毎日の見守りボランティアを生きがいとされていたボランティアの皆さんが、家にこもりがちになり、家でもできるボランティアを模索していた時期、日本中に、マスクが足りないという事態となりました。キッチンペーパーと、ストッキングでできる手作りマスクを作成し、約1,000枚を、社会福祉協議会に寄贈しました。



東海豪雨から20年・NHKの取材 その1

東海豪雨から20年。毎年、東海豪雨出前講座の講師をしていただいている清須市教育委員会教育長職務代理者 堤 忠正様と、大型紙芝居「忘れない東海豪雨、語り継ごう未来のために」をしていただいている清須市学校支援地域本部統括コーディネーター武島 敦子様へのNHKによるTV取材が、今日、古城小学校で行われました。この模様は、9月8日(火)のNHK夕方18:10からの「まるっと!」で放映される予定です。

(古城小HPより)



5 学校における学校支援ボランティアの継続的な活動

(1) 読書活動推進の支援

本市における学校支援地域本部事業は、清須市立図書館開館以来、図書館と連携し、公立図書館の資料を市内の学校に貸し出し、読書活動推進の支援に力を入れています。

昨年度までの定期的な貸し出しは、清洲中学校「きよ丸文庫」・西枇杷島中学校「きずな文庫」・西枇杷島小学校「クロモッチーLibrary」・春日小学校の4校のみとなっていました。今年度より市内全ての小中学校への定期的な貸し出しが可能となりました。

中学校では、100冊を年間8回、小学校では、100冊を年間3回、4週間貸し出し可能となります。清須市立図書館と学校の間の調整を学校支援地域本部が担い、より多くの学校に拡大していきたいと考えていましたが、コロナ禍の中、活発な活動はできませんでした。

清洲中学校においては、10月より「きよ丸文庫」の再開ができました。

図書修繕、図書室の整備等は、子ども達と直接関わることもないことから、感染症対策を講じ、感染拡大を予防する新しい生活様式を取り入れ、密閉、密集、密接を避け、社会的距離ソーシャルディスタンス〔相手との距離を2m程（最低でも1m）〕を取りながら再開しました。

特に、春日中学校においては今年度より、図書修繕、整備ボランティアの活動を開始することができました。8月より、毎月1回図書修繕と整備を行っています。

新川中学校、西枇杷島小学校、桃栄小学校、春日小学校においても、図書整備を再開することができました。清洲東小学校では、3学期にブッカーがけをおこなう予定です。

図書ボランティアさんの活動 9月15日

午後から図書ボランティアの方々に来校していただき、ブックカバーが取れてしまって、タイトルが読めなくなってしまった本の修繕をしていただきました。これからも毎月来ていただき、図書室の整備をすすめてもらいます。

(春日中HPより)



図書ボランティアの活動紹介 12月3日

図書ボランティアの皆さんが、毎月1回程度、本校の図書館の環境整備や読書活動の推進のために活動しています。今月は、北館1階のろうかの掲示を作成していただきました。「一度は読みたい映像化作品」と「図書委員のオススメの本」のコーナーです。ろうかの雰囲気明るくなりました。本に親しむきっかけになるといいですね。

(新川中HPより)



図書ボランティアの方々が来てくれました。9月1日

図書ボランティアの方々が来てくれました。検温されて間隔をとられ、感染症対策に気を配りながら、作業されました。細やかなきれいな手作業で、可愛い掲示物をたくさん作っていただきました。まだまだ十分に図書室を活用できる状況ではありませんが、徐々に図書室を訪れる子どもたちが多くなる日が来ることを願っています。図書ボランティアの皆様、いつもありがとうございます。

(春日小HPより)



図書ボランティアの方々が来てくれました。

11月12日

昨日、図書ボランティアの方々が来てくれました。低学年図書室と高学年図書室の飾りつけをしていただき、クリスマスバージョンになりました。たくさん子どもたちがここを訪れる日が来ることを、切に望みます。図書ボランティアの方々、いつもありがとうございます。

(春日小HPより)



星の宮小学校においては、長寿命化計画の工事にともなう図書室整備のお手伝いをおこないました。

古城小学校では、コロナ禍でストレスを感じている子ども達に、読み聞かせで心に潤いをもってもらおうと、7月～11月まで(全7回)、大型絵本や紙芝居を使い、フェイスシールドとマスクをして読み聞かせをおこないました。

(2) 大型紙芝居「忘れない東海豪雨」の実演

西枇杷島小学校(9月18日)と古城小学校(9月11日)において、実演しました。

今年度は、体育館での三密を避け、西枇杷島小学校では6年生の有志が実演し、1年生が鑑賞しました。古城小学校では、6年2組が鑑賞しました。学校支援ボランティアがそれぞれの上演をDVDにして、当日見ることでできなかった学年に配布するという形をとりました。

読み聞かせスタート 7月3日
待ちに待ったハッピーハッピー(読み聞かせサークル)の読み聞かせが始まりました。今までは、近くに集まっていたのですが、座席の位置を変更せず、密を避けて聞きました。
(古城小HPより)



東海豪雨紙しばい上映 その1 9月11日

毎年、読み聞かせサークル「ハッピーハッピー」の方と地域の有志の方で上映していただいている紙しばい「忘れない東海豪雨、語り継ごう未来のために」が今年度も行われました。

今回は学校を代表して6年2組が鑑賞しました。東海豪雨から20年という節目にあたり、NHKや中日新聞、朝日新聞からの取材がありました。(古城小HPより)



ゆう&ゆう 12月11日

「子とともに ゆう&ゆう」1月号で本校の活動が紹介されました。

災害を語り継ぎ防災意識を高めるため、9月18日(金)に6年生が1年生に対して「東海豪雨紙芝居」を行った時の内容です。

地域ボランティアの皆様の協力を得て、例年行っているものです。(西枇杷島小HPより)



(3) その他の支援

新川小学校では、昨年に引き続き1年生にとって小学校生活初めての給食の日から1週間、給食当番の準備、配膳の様子を見守る学校支援ボランティアを行いました。

清洲小学校では、健康診断5日間、内科健診3日間、耳鼻科健診、就学時健診、校区探検の付き添い補助を行いました。

6 おわりに

本市における学校支援地域本部事業は、「読書活動推進の支援」と「防災教育」を、大きな2本の柱として活動してきました。今年度においても、コロナ禍において、感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減しつつ活動を継続できたことは、学校と学校支援ボランティアの間で協議、調整を重ねた地域コーディネーターの努力の賜物だといえます。

今後とも、一定期間は新型コロナウイルスとともに社会で生きていかなければならないことが見込まれるとされており、感染拡大を予防する新しい生活様式の普及が提言されています。地域学校協働活動は、これまで子どもたち、そして高齢の方を含む幅広い地域住民の方々が一堂に会する場合が多く想定されてきたところですが、地域と学校が力をあわせて子どもたちの成長を支える重要な取り組みであり、多くの制約がなされる状況下においても、様々な工夫を凝らして活動を再開させなくてはならないと考えています。それぞれの活動の目的や趣旨に合致するものであれば、その活動方法の全てが必ずしも直接対面で行うものに限定されるものではありません。今回、東海豪雨の紙芝居をDVD化し配布したことも新しい取り組みの1つといえます。

学校では、1人1台タブレットの導入が決まっています。充実した支援ができるような体制を整えていきたいです。

平成31年1月に取りまとめられた、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」〔中央教育審議会（文部科学省）〕においては、学校及び教師が担う業務の明確化・適正化においては、これまで教師が担ってきた業務において「基本的に学校以外が担うべき業務」として、①登下校に対する対応 ②放課後から夜間などに対する見回り、児童生徒が補導された時の対応 ③学校徴収金・管理 ④地域ボランティアとの連絡調整。「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」として、⑤調査・統計等への回答等 ⑥児童生徒の休み時間における対応 ⑦校内清掃 ⑧部活動など業務の在り方に関する考え方が整理され、その業務内容に応じて、地方公共団体や教育委員会、保護者、地域学校協働活動推進員や地域ボランティア等が担うべきと明記されました。

学校支援地域本部事業の活動すべてにおいて「3つの密」を徹底的に避け「マスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など基本的な感染対策を継続する。その際、感染症対策を徹底しつつも、感染リスクはゼロにすることはできないという事実を受け止めて、冷静な行動と的確な判断を目指します。

新型コロナウイルス感染症は、来年度以降も活動に大きな影響を与えるに違いありません。今年度の活動の中から見えてきた課題と向き合い、未来を担う子ども達の豊かな学びや成長を支えるために、何ができるかを考えながら歩んでいきたいです。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願っています。